

発行元  
東京新聞  
南千住東口専売店  
TEL5850-3699  
発行責任者  
鬼塚 佳代子  
TEL090-2657-0300

# すまいるたうん



第313号  
平成27年

2月13日

## はい！東京新聞です

取材現場のつぶやき



毎日、「あの日から七十年」という何かがあると言ってもいいくらい、戦後七十年は大切な年です。

私は一九八六年に新聞記者になりましたので、一九九五年の戦後五十年、二〇〇五年の戦後六十年、二つの節目での取材を体験しました。

これまでの二つの節目と決定的に違うことがあります。それは、体験者の方々が本人の話をうかがえるのは、この七十年という節目を過ぎた後は、非常に難しくなる、ということなのです。

今年に限ったことではないのですが、今年には特に、より多くの戦争体験者の方々に、お話を聞かなければ、と思っ  
ていきます。どなたも日々、お忙しいと思  
いますし、ご健康が優れない方も多  
いと思います。もし、私どもの記者が  
取材にうかがうことがあったら、つら  
い体験をお話したくのは心苦しい  
ですが、少しの時間でもけっこうです  
ので、みなさまの貴重な証言を、お聞  
かせ下さい。

二月にも、戦争にかかわる、いろい  
ろな節目があります。二月十九日は、  
硫黄島に米軍が上陸した日です。

私は一度、硫黄島へ取材に行ったこ

とがあります。一九九四年のことです。

硫黄島は、一八七六（明治九）年に日  
本が領有宣言をして以降、日本人が移り  
住み、パイナップルなどの果樹や冬野菜  
などの農業カツオ、マグロなどの漁業、  
捕鯨などを営み、大正後期の人口は七千  
人を超えていたそうです。荒川区のコツ  
通り周辺、南千住七丁目の人口がだいた  
い六千人だそうですから、小さな島に、  
いかに多くの人が暮らしていたかがわか  
ると思います。

太平洋戦争で日本の敗色が濃くなり、  
サイパン島に米軍が上陸した一九四四年  
六月ごろには、硫黄島にも空襲が続いた  
ため、硫黄島民は本土へ強制疎開させら  
れました。

翌一九四五年二月十九日、硫黄島に米  
軍が上陸しました。その後、日本軍二万  
一千人、米軍六千八百人が命を奪われる  
恐ろしい戦闘が続きました。

私は、強制疎開から五十年の節目で、  
硫黄島へ取材に行きました。強制疎開さ  
せられ、その後も島に戻れないまま半世  
紀が過ぎた旧島民の方々の、島への訪問  
に同行しました。

硫黄島には、自衛隊員の方々など以外  
には、住民はいません。旧島民の方が、  
「私の家がこのへんにあるはず」という  
所へ、一緒に歩いて行きました。ジャン  
グルのような森の中でした。

その方の家があったはずの場所は結局、

わかりませんでした。硫黄島は猛烈な艦  
砲射撃や空襲で、地形がすっかり変わっ  
てしまったといわれます。ふるさとの名  
残はありませんでした。

それでも、その方は「島に帰りたい」  
とおっしゃっていました。  
どんなに変わってしまったおうとも、ふる  
さとはかけがえのないものなのだと思います。

二〇〇六年に公開された映画「硫黄島  
からの手紙」が最近、テレビでも放映さ  
れました。あのダーティー・ハリイで有  
名なクリント・イーストウッドさんが監  
督を務めた米国映画です。主演は今、お  
そらく日本人ではいちばん世界に知られ  
ている俳優の一人である渡辺謙さん。国  
民的人気を誇るアイドルグループ「嵐」  
の二宮和也さんも出演したので、若い人  
も、かなりこの映画を見たそうです。

戦争の恐ろしさ、むごさ、無意味さ。  
語り、文章、映画、どのような形でもい  
いから、次世代にしっかりと伝わるように  
伝えていかなければいけません。私は戦  
争を知らない世代ですが、戦争を体験さ  
れている両親や祖父母の世代から、たく  
さんの証言を直接、伝えていただいた世  
代です。それを、子どもたちの世代に伝  
えていきたいと思います。

（東京新聞 社会部 部次長  
〔前・したまち支局長〕 榎本哲也）